

《実績》

2018年度は2017年度より手術症例は11例増え、表1に記載したとおり腹腔鏡手術の割合が格段と増えた。

ところで、日本は超高齢化社会を迎え、手術症例も高齢化が進んでいる。肝胆膵の高難度手術においても、この10年は80歳以上の超高齢者の割合が2割に近づいている。当院開設前には80歳以上の症例に膵頭十二指腸切除を施行するなどは、考えられなかったことである。昨年は当院における80歳以上の膵頭十二指腸切除例と、肝細胞癌手術例の成績を再度まとめ学会で報告した。その結果、膵頭十二指腸切除例の13.7%が、肝臓癌手術例の18%が80歳以上の超高齢者（最高齢86歳（肝細胞癌破裂後の肝左葉切除））であった。術後生存率は80未満の症例に劣るものの、他病死を除いた疾患特異的生存率には差がなかった。肝細胞癌手術と異なり、膵頭十二指腸切除においては、高度の進行癌に対しては施行を控えていることもあり、手術時間、術中出血量はむしろ、80歳未満の症例の方が統計学的に有意に多い傾向にあった。しかし、術中輸血量、術後在院日数には80歳以上と未満では差がなかった。術後合併症の比率は80歳以上の超高齢者の方が多かったが、特にせん妄が多く、重篤な合併症には差がなかった。全身状態を評価後症例を選んで行えば、超高齢者にも安全に高難度手術が可能と思われた。

表1

食道	食道裂孔ヘルニア手術（腹腔鏡）	1
胃	幽門側胃切除術（悪性）	10
	胃全摘術（悪性）	7
	噴門側胃切除術（悪性）	0
	腹腔鏡下胃切除術（悪性）	8
	腹腔鏡下胃全摘術（悪性）	2
	胃切除術（良性・開腹）	0
	胃切除術（良性・腹腔鏡）	4
	胃その他手術	4
小腸	イレウス解除術（開腹）	4
	イレウス解除術（腹腔鏡）	5
	小腸切除術	4
	虫垂切除術（開腹）	4
	虫垂切除術（腹腔鏡）	12
	結腸切除術（開腹）	24
	結腸切除術（腹腔鏡）	23
	結腸（その他）	2
	人工肛門造設術	17
	人工肛門閉鎖術	6
大腸	高位前方切除術	1
	低位・超低位前方切除術	2
	腹会陰式直腸切斷術	1
	直腸手術（腹腔鏡）	17
	経肛門的直腸腫瘍摘出術	1
	Hartmann手術	1
	大腸全摘・亜全摘術	0
	直腸手術（痔核、裂孔、痔瘻、直腸脱など）	15
	骨盤内臓全摘術	0
	HPD	0
肝胆膵	PD	4
	膵全摘	0
	膵体尾部切除	2
	肝切除（開腹部分切除）	1
	肝切除（腹腔鏡下部分切除）	1
	肝切除（亜区域切除以上）	5
	肝門部胆管癌手術	2
	胆嚢癌手術	1
	胆管空腸吻合術	2
	胆嚢摘出術（開腹）	5
胆嚢摘出術（腹腔鏡）	40	
胆管切開術	1	
脾摘	1	
ヘルニア など	鼠径・大腿ヘルニア	108
	鼠径・大腿ヘルニア（腹腔鏡下）	5
	腹壁ヘルニア（開腹）	6
	腹壁ヘルニア（腹腔鏡）	4
	内ヘルニア	1
	汎発性腹膜炎手術	3
その他（局麻）	7	
その他（全麻）	4	
合 計		374